

2012年度 後期

# 東北大学会計大学院アンケート実施報告書

---

*Tohoku University Accounting School*

東北大学会計大学院ワークショップ委員会

## 1. はじめに

東北大学会計大学院は2005年4月に国立大学法人では初めての会計専門職大学院として開設され、今年度で9年目を迎え、2013年3月末時点で200名以上の卒業生を社会に送り出すことができた。本大学院の目的は、グローバルな視野と高度な分析能力を持つ職業会計人を養成し、将来にわたりこのような人材を社会に提供し続けていくことである。本大学院での教育の理念は、会計分野の知識だけでなく、経済や経営、IT、法律といったこれからの社会で会計の専門家として活躍するために求められる知識と素養を修得することである。この理念を達成するため、私たちは、社会が職業会計人に求める能力を把握し、これを学生への教育へと反映し、同時に、現在行っている教育が学生の能力やニーズに見合っているかを常に確認しながら、より効果的な教育方法を模索していく必要があると考えている。本会計大学院の理念に鑑み、私たちは、会計大学院における最善の教育方法・システムを求めていくためのひとつの手段として、毎 Semester 終了後にアンケートを実施している。過去のアンケートは、「アンケート実施報告書」として会計大学院のホームページ (<http://www.econ.tohoku.ac.jp/~tuasad/keiji2013a.html>) で公開している。私たちがこの報告書を公表する意図は、東北大学会計大学院への入学希望者や、将来私たちが教育した学生を受け入れていただくことになる監査法人・会計事務所・企業・官庁の方々に、本会計大学院でどのような教育が行われているかを理解して頂きたいという点にある。私たち教員は、この調査報告書の公開により、東北大学会計大学院への関心が高まり、本大学院出身の学生が高度な分析能力を持つ職業会計人として活躍できる機会が増えることを期待している。私たちは、このアンケート調査報告書を在学生在が教員に対して発信したメッセージと捉えている。今後とも、私たちはアンケートを通じて改善すべき点を見だし、質の高い教育サービスを提供できるよう努力していきたいと考えている。アンケート結果についてご意見等をいただければ幸いである。

2011年3月11日、我々は東日本大震災という未曾有の大災害を経験した。諸方面の関係者の助力をたまわり、大学院運営への迅速な復帰ができたことは、いまだに記憶に新しい。手助けいただいた方々に感謝するとともに、学生は勉学に励み、教員たちは教育・研究に専心していきたい。

2013年7月1日

東北大学会計大学院ワークショップ委員会

## 2. 実施方法

本報告書の対象となるアンケートは、2013年1月15日から1月25日の間に受講者に配布・実施された。アンケートの種類は以下に示す通りである。

①「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」(巻末資料 1)

②「会計大学院の授業に関するアンケート」(巻末資料 2)

両アンケートともに無記名であり、①は1学生につき1回限りの回答とした。②は履修者が5名以上である全ての講義について実施し、学生は受講している講義ごとに回答を行っている。なお、講義担当教員の希望があったものについては、履修者が5名未満の場合でも実施している。本報告書では、まず①のアンケートの集計結果から、本会計大学院の教育システム全般に関する分析を行い、問題点を明らかにし、今後の対応について述べる。続いて、②のアンケート結果を集計し、今semesterに開講された科目について、その教育内容・教育方法全般に関する分析を行い、その問題点を明らかにし、今後の対応を検討する。本報告書では、アンケートにより得られたデータを可能な限り定量的に分析したいと考えている。そこで、①における自由記入欄の内容については、次年度以降にカリキュラム編成を行う際の参考とし、重要と考えられる意見に対してのみ若干のコメントを行いたい。また、②における科目毎のアンケートの集計結果(アンケート質問項目17の自由質問を含む)と自由記入欄の記載内容は担当教員に直接報告されている。ワークショップ委員会では、これが次年度以降の講義内容の充実に資することと期待している。

### 3. 「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」の集計結果について

#### 3.1. アンケートの実施状況

本アンケート用紙は2012年度後期に開講された科目のうち、多数の会計大学院学生が履修する「情報システム設計」（会計大学院学生の履修者34名）において配布・回収され、この科目を履修していない学生については会計大学院事務分室で配布・回収を行った。回収数は29であり、会計大学院の在籍学生数の4割程度であるため、会計大学院全体の動向を反映したものとは言い切れないが、今後のカリキュラム編成の参考材料にはなり得るものとする。

#### 3.2. 設問ごとの集計結果と推移

以下では、それぞれの設問についての集計結果と、直近7年度分の推移を示す。以下に掲載したうち、2006年度には前期にもカリキュラムについてのアンケートを行っているが、紙面の都合上ここでは後期実施分のみ示すこととする。なお、全項目の集計結果については巻末資料を参照されたい。

設問1は受講者属性を問うものであり、本アンケート回答者の90%以上が会計大学院学生であった。したがって、本アンケート結果は当会計大学院学生のカリキュラムに対する声を反映しているものと考えられる。

設問2：基礎、展開、実践・応用の科目配置は適切だと思いますか。

選択項目	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
適切である	42.00%	32.79%	20.00%	26.19%	50.00%	39.47%	35.71%
ほぼ適切である	36.00%	34.43%	50.00%	45.24%	40.00%	31.58%	35.71%
どちらともいえない	16.00%	14.75%	16.67%	19.05%	5.00%	26.32%	17.86%
やや不適切である	2.00%	11.48%	13.33%	7.14%	5.00%	2.63%	10.71%
不適切である	4.00%	6.56%	0.00%	2.38%	0.00%	0.00%	0.00%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100%
総数	50	61	30	42	20	38	28

設問3： Semester間の開設授業科目のバランスは適切だと思いますか。

選択項目	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
適切である	28.00%	16.67%	10.00%	21.43%	31.58%	18.42%	31.03%
ほぼ適切である	20.00%	25.00%	30.00%	28.57%	26.32%	23.68%	31.03%
どちらともいえない	22.00%	26.67%	26.67%	28.57%	15.79%	18.42%	20.69%
やや不適切である	24.00%	18.33%	26.67%	19.05%	15.79%	28.95%	13.79%
不適切である	6.00%	13.33%	6.67%	2.38%	10.53%	10.53%	3.45%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100%
総数	50	60	30	42	19	38	29

設問4： オフィスアワーを利用して教員に履修相談・質問等を行った回数は。

選択項目	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
5回以上	6.12%	9.84%	6.67%	0.00%	25.00%	10.53%	6.90%
4回または3回	14.29%	13.11%	16.67%	4.76%	10.00%	2.63%	17.24%
2回	16.33%	26.23%	13.33%	16.67%	0.00%	10.53%	3.45%
1回	14.29%	16.39%	10.00%	11.90%	10.00%	10.53%	27.59%
利用しなかった	48.98%	34.43%	53.33%	66.67%	55.00%	65.79%	44.83%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100%
総数	49	61	30	42	20	38	29

設問5： Semester開始時の個人面談は、学習計画を立てる上で役に立ちましたか。

選択項目	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
役に立った	18.00%	38.33%	30.00%	23.81%	40.00%	23.68%	13.79%
まあまあ役に立った	32.00%	23.33%	26.67%	47.62%	5.00%	36.84%	37.93%
どちらともいえない	18.00%	15.00%	23.33%	26.19%	30.00%	23.68%	24.14%
あまり役に立たなかった	14.00%	10.00%	16.67%	2.38%	5.00%	7.89%	17.24%
役に立たなかった	18.00%	13.33%	3.00%	0.00%	20.00%	7.89%	6.90%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100%
総数	50	60	30	42	20	38	29

設問 6 : GPA によって学生の能力は適切に評価できると思いますか.

選択項目	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
適切である	14.00%	18.03%	10.00%	7.14%	25.00%	10.53%	24.14%
ほぼ適切である	16.00%	24.59%	33.33%	30.95%	15.00%	23.68%	17.24%
どちらともいえない	38.00%	29.51%	36.67%	38.10%	55.00%	34.21%	41.38%
やや不適切である	16.00%	16.39%	13.33%	14.29%	5.00%	18.42%	10.34%
不適切である	16.00%	11.48%	6.67%	9.52%	0.00%	13.16%	6.90%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100%
総数	50	61	30	42	20	38	29

設問 7 : 受験のための自主学習には 1 日平均何時間くらい掛けていますか.

選択項目	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
5 時間以上	32.65%	35.00%	43.33%	34.15%	40.00%	43.24%	35.71%
4-5 時間	16.33%	20.00%	20.00%	21.95%	5.00%	10.81%	17.86%
3-4 時間	8.16%	16.67%	6.67%	9.76%	25.00%	8.11%	10.71%
1-3 時間	28.57%	15.00%	16.67%	12.20%	5.00%	24.32%	17.86%
1 時間未満	14.29%	13.33%	13.33%	21.95%	25.00%	13.51%	17.86%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100%
総数	49	60	30	41	20	37	28

注) 「1 時間未満」の項目は 2010 年度アンケートまでは「していない」であった.

設問 8 : e-mail, HP を用いた連絡システムは役に立ちましたか.

選択項目	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
役に立った	62.50%	56.67%	58.62%	57.14%	60.00%	71.05%	55.17%
まあまあ役に立った	33.33%	23.33%	41.38%	23.81%	35.00%	23.68%	31.03%
どちらともいえない	2.08%	15.00%	0.00%	16.67%	5.00%	5.26%	13.79%
あまり役に立たなかった	2.08%	1.67%	0.00%	2.38%	0.00%	0.00%	0.00%
役に立たなかった	0.00%	3.33%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100%
総数	48	60	29	42	20	38	29

設問 9 : 在学中の受験を考えていますか.

選択項目	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
考えている	72.92%	67.24%	82.76%	71.43%	63.16%	59.46%	48.28%
まだ決めていない	4.17%	6.90%	6.90%	9.52%	10.53%	10.81%	13.79%
考えていない	22.92%	25.86%	10.34%	19.05%	26.32%	29.73%	37.93%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100%
総数	48	58	29	42	19	37	29

設問 10 : OB 会について (この設問は 2007 年度に追加したものである.)

選択項目	2007	2008	2009	2010	2011	2012
賛成	51.72%	66.67%	57.14%	80.00%	78.38%	67.86%
反対	6.90%	3.70%	2.38%	5.00%	2.70%	10.71%
分からない	41.38%	29.63%	40.48%	15.00%	18.92%	21.43%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100%
総数	58	27	42	20	37	28

### 3.3. 自己評価と今後の課題

ここでは、設問2から10の集計結果を基に、特徴が顕著なものについて問題点を明らかにし、今後の対応を示す。

設問2（基礎、展開、実践・応用の科目配置）については、これまでと同様に、アンケート時に「基礎」・「展開」・「実践・応用」の科目分類表を配布し、これを見ながらアンケートに回答してもらった。「適切である」と「ほぼ適切である」の合計はこれまでと同様に70%を越えており、高い水準を保っていると言える。また、「やや不適切である」と「不適切である」の合計が10%を超えた。2010年度の分布と比較すると全体的に悪化していると考えてよいだろう。この設問は本会計大学院のコンテンツのバランスに対応する重要なものである。個人面談等を通して引き続き監視・調査を行っていききたい。

設問3（セメスター間の開設授業科目のバランス）については、「適切である」と「ほぼ適切である」の合計が62.06%であった。「やや不適切である」と「不適切である」の合計は2割を切っており、過去数年で最も好ましい結果となった。セメスター間の科目の配置に関してはかなり問題が解消されてきたと考えてよいだろう。

設問4（オフィスアワー）については、基本的にこれまでと同じ結果になった。「1回」あるいは「利用しなかった」と回答した学生が7割程度いるのはこれまでと同じ傾向である。個人面談でも学生に質問しているが、教員に質問のある学生はほとんどの場合授業後に教員に相談に行き、別途オフィスアワーを利用することは少ないようである。しかし、オフィスアワーは本会計大学院が学生に対して開かれた体制をとっていることを保証するものであり、たとえ利用回数が少ないといっても存在意義は大きい。

設問5（個人面談）については、「役に立った」と「まあまあ役に立った」の合計が50%を超えており、これまで通りの傾向が続いている。しかし、「余り役に立たなかった」と「役に立たなかった」の合計が24.14%と、過去と比較してやや高い点と、「役に立った」が13.79%と過去数年で最低になっている点は、何か注意すべき点があるのかもしれない。関連のありそうな背景として、以前は個人面談を「履修相談」と本会計大学院では呼んでいたことがある。科目履修以外にも多くの点についてきめ細やかな指導をしているため、2010年度からこれを個人面談と改称したものである。個人面談では、修了要件のチェックから学生生活に関する相談や進路に関する相談まで、幅広い内容について教員と学生が面談する。過去と比べると、個人面談の中で学習計画について触れる時間が比較的短くなっているのかもしれない。しかし逆に考えると、科目履修の計画をたてる上で学生がより自主的に振る舞うようになっていると考えることもできる。設問5の結果については教員間に周知し、検討していききたいと思う。

設問6（GPAによる評価）では、「やや不適切である」と「不適切である」の合計が4割を越え、過去の水準と比較してかなりよい結果になった。この設問に関しては、AA, A, B, C, Dによる成績評価の良し悪しと、GPAあるいはこの設問の趣旨を学生が理解しているかどうかの両面を考える必要がある。前者については、「授業に関するアンケート」の設問11で同様の質問を行っているが、2012年度も授業ごとの成績評価に大きな問題はなかったようである。GPAは様々な用途に利用されることがあるが、本会計大学院では、自己管理のための利用を特に強調している。こうしたGPAの趣旨を学生にも理解してもらいたいところではあるが、設問6については今後も経過を観察していききたい。

設問7（受験勉強にかける時間）では、概ねこれまでと同様の結果になった。「5時間以上」と「4-5時間」の合計が5割前後で、「1時間未満」が2割前後というこれまでの傾向とあまり変わらないと考えて良いだろう。5時間程度では公認会計士試験の受験勉強には足りないように思えるが、会計大学院の授業とその予習・復習を併せれば、妥当な学習時間だと考えてよいだろう。設問9（在学中の受験）の結果を考えれば、「5時間以上」が35.71%とやや低めの水準だったことも自然なことであろう。

設問8（email, HPを用いた連絡システム）については、これまでどおり「役に立った」と「まあまあ役に立った」の合計が8割を超えており、好ましい結果であったと考えられる。過年度においても散見されるが、「どちらともいえない」が10%を超えている。こういった理由でこうした回答になるのか理由がわからないが、今後ともウェブを利用した連絡システムは活用していききたい。

設問9（在学中の受験）では、「考えている」が減少し続けており、初めて5割を割りこんだ。「考えていない」も37.93%と過去最高である。2012年度まで、本会計大学院在学生の公認会計士志望者の割合は減少を続けてきた傾向がはっきりと見て取れる。個人面談の結果からも、多くの学生が在学中に合格できなければ受験を継続せずに民間企業等の別の道を選んでいることが伝わってきている。修士課程は2年と短いため、最近は入学時点ですでに公認会計士試験の受験をする意志のない学生も多いようである。このように、本会計大学院の学生の進路は多様化してきていると考えられる。我々も学生のニーズを汲み取り、より充実したカリキュラムを設計していきたい。

#### 4. 「会計大学院の授業に関するアンケート」に関する分析

##### 4.1. アンケートの実施状況

2012年度後期における開講講義数は50科目であり、そのうち履修者が5名以上の講義（22科目）についてアンケートが実施された。アンケート実施科目と履修者・アンケート回収数をまとめると次のようになる。

授業科目名	履修者数	回収数
コストマネジメント	9	8
財務諸表	38	22
事例研究（財務諸表）	8	7
ビジネス・プレゼンテーション1	10	8
ビジネス・プレゼンテーション2	10	9
原価計算2	41	27
簿記2	41	33
情報システム設計	34	27
監査計画の編成法1	6	5
内部統制の実務	18	16
財務諸表分析	26	22
事例研究（法人税法）	8	8
上級証券取引行政	7	7
財務行政	8	8
企業開示制度のしくみと実際	5	4
監査制度	21	20
上級監査制度	5	5
事例研究（経営管理）	9	8
事例研究（国際会計基準）	8	5
上級財務会計	17	10
消費税法	12	8
公会計	29	16
合計	370	283

「履修者数」は履修登録を行った学生数であり、「回収数」は履修登録を行わず聴講している学生も含んでいる。

表1：アンケート実施科目と回収数

今回のアンケートでは、述べ履修者数370名に対して283名から回答を得た。アンケートの回答率は76.49%であり、前回（2012年度前期、82.72%）と同様に7割を越える高い回収率であった。

なお、質問項目17は科目担当教員が独自に設定できる質問であり、アンケートの集計には含めていない。

#### 4.2. アンケートに関する基本統計量

各設問の選択肢に付与された数字は、好ましい回答ほどその値が大きくなるよう設定されているため（設問1を除く）、この数値化によって回答の平均値、中央値、最頻値の算出を行った。併せて、参考のため標準偏差も計算した。その結果は以下の通りである。なお、アンケートの内容については資料2を参照されたい。

項目\設問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
	属性	出席	予習	復習	宿題	理解	難易度	教員準備	プレゼン	教材	評価方法	シラバス	教員評価	対試験	キャリア	資格
5	69	174	14	9	29	83	139	190	186	160	148	125	160	93	135	11
4	174	65	12	10	14	119	91	64	57	76	91	102	71	77	84	20
3	16	26	18	14	35	59	44	23	20	29	34	40	37	68	43	53
2	13	5	35	50	64	16	3	3	10	13	5	12	11	17	10	142
1	9	11	108	125	89	6	5	2	9	4	4	3	3	27	7	6
0	1	1	96	75	49	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	31
合計	282	281	283	283	280	283	282	282	282	282	282	282	282	282	279	263
平均値	3.99	4.37	1.24	1.24	1.87	3.91	4.26	4.55	4.42	4.33	4.33	4.18	4.33	3.68	4.17	2.22
中央値	4.00	5.00	1.00	1.00	2.00	4.00	4.00	5.00	5.00	5.00	5.00	4.00	5.00	4.00	4.00	2.00
最頻値	4	5	1	1	1	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	2
標準偏差	0.912	1.052	1.357	1.188	1.505	0.956	0.886	0.749	0.992	0.936	0.86	0.906	0.92	1.256	1.018	1.154

表2：アンケートの基本統計量

これまでのアンケート結果と同様、設問3（予習）から設問5（宿題）と設問16（資格）以外は、平均値が概ね4以上であり、中央値や最頻値も4か5である。この傾向は過去数年と大きな違いはなく、会計大学院の講義に対する評価はこれまでと変わらず良好であると言ってよいだろう。

これまでと同様に、設問3～5からは会計大学院の授業に関連する勉強時間が少ないことが分かる。予習の平均時間の平均値（設問3）が2011年度後期の0.89から1.24へ大きく伸びてはいるが、絶対的な長さはこれまでと同じく短めと判断してよいだろう。予習・復習については、どの学生もできるだけ短めに抑えようとした結果だと思われるが、宿題にかかった時間を見ると、標準偏差は大きく、学生によってかなりばらついていると考えてよいだろう。授業によって課される宿題の量は異なるだろうが、宿題をどの程度手間と時間をかけてやっているかも学生によって異なると考えられる。また、本報告書には載せていないが、GPAはかなりばらついており、単位の修得が容易というわけではない。宿題にかかる時間の分布からは、会計大学院の授業で課される宿題の量と質が、学生にとって適度に厳しいと考えてよいだろう。

その他の目立つ変化として、設問14（対試験）が挙げられる。設問14の平均値は、2011年度後期は4.01だったが、今回は3.68と、少々下がっている。この変化に影響を与えそうな要因として、ふたつの可能性が考えられる。ひとつは、カリキュラムの編成が毎年少しずつ変化していくに従い、結果的に各講義の内容が会計士試験との関連性が薄まる傾向にあるか、試験との関連性が低い科目が増えている可能性である。この点については、アンケートの対象になった科目の組み合わせにも結果は依存すると考えられ、はっきりしたことは分からない。もうひとつは、会計大学院学生のニーズが変化あるいは多様化しているため、受講科目を選択する時に会計士試験に役に立つか否かを度外視する傾向が強くなっている可能性である。このふたつ目の可能性については、本会計大学院在学生の公認会計士試験受験希望者がこの数年減少傾向にあることとの関係が疑われる。このことは前節の「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」設問9で確認できる。会計士試験の受験を控えていない学生は、自分の関心やキャリアへの貢献だけを基準に受講科目を選んでおりと考えられる。修了要件によって選択必修科目の枠は設けられているが、受講科目選択にはかなりの自由がある。ここでは、学生のニーズの多様化が設問14の結果の背後にある可能性を指摘しておくにとどめておく。

#### 4.3. 各設問間の相関

質問項目間の相関関係をみるために、次のような表を作成した。設問16の資格は複数回答が可能となっているが、相関係数の計算上、複数回答者については複数の数値を合計した値を用いている。例えば、2と3の資格を持つ回答者は資格の値を5として相関係数を計算している。なお、表2の計算の際には、資格についてこのような合計はしていない。

設問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
	属性	出席	予習	復習	宿題	理解	難易度	教員準備	プレゼン	教材	評価方法	シラバス	教員評価	対試験	キャリア	資格
1 属性	1.000															
2 出席	-0.150	1.000														
3 予習	-0.169	0.040	1.000													
4 復習	-0.092	-0.039	0.729	1.000												
5 宿題	-0.074	0.036	0.445	0.524	1.000											
6 理解	0.011	-0.051	0.033	0.026	-0.059	1.000										
7 難易度	-0.127	0.090	0.129	0.061	0.141	0.488	1.000									
8 教員準備	-0.119	0.157	0.107	0.070	0.194	0.163	0.468	1.000								
9 プレゼン	-0.107	0.126	0.127	0.100	0.176	0.242	0.452	0.639	1.000							
10 教材	-0.082	0.140	0.017	-0.030	0.132	0.230	0.462	0.649	0.688	1.000						
11 評価方法	-0.117	0.083	0.123	0.104	0.152	0.242	0.443	0.543	0.576	0.648	1.000					
12 シラバス	-0.079	0.115	0.112	0.120	0.133	0.169	0.299	0.563	0.602	0.604	0.553	1.000				
13 教員評価	-0.109	0.085	0.127	0.071	0.147	0.295	0.510	0.694	0.780	0.734	0.625	0.615	1.000			
14 対試験	-0.097	0.014	0.194	0.240	0.075	0.176	0.373	0.308	0.414	0.392	0.284	0.327	0.374	1.000		
15 キャリア	-0.128	0.116	0.150	0.158	0.201	0.293	0.514	0.452	0.472	0.487	0.531	0.410	0.538	0.348	1.000	
16 資格	0.352	-0.084	-0.065	-0.028	-0.088	0.073	-0.025	-0.061	-0.008	-0.051	-0.036	-0.060	-0.070	0.054	-0.091	1.000

表3：質問項目数の相関関係

過年度と同様に、設問3（予習）～設問5（宿題）の間で比較的高い正の相関が見られる。これらの設問は学生の会計大学院の授業に関連する勉強時間についてのもので、予習等をよく行う学生は復習等もよく行うことを示している。

また、こちらもこれまでと同様に、設問6（理解）～設問15（キャリア）の間で全般的に高い正の相関が見られる。これらの設問は会計大学院の講義に対する評価に関するものであり、我々は毎年特に注目している。特に、設問8（教員準備）、設問9（プレゼン）、設問10（教材）の列は相関がかなり高い。このことは、講義の評価は教員の準備と現場でのプレゼン技術にかなり影響されることを示していることを示している。設問8（教員準備）と設問13（教員評価）の間の相関は0.694、設問9（プレゼン）と設問13（教員評価）の間の相関は0.780と極めて高いことから、このことは見て取れる。

この点もまた過去と同様だが、設問3～設問5の設問群と設問6から設問15の設問群の間では、正であれ負であれ相関がゼロに近かった。この点については、様々な要因が絡んでいるためはっきりとしたことは言えないが、会計大学院の授業関連の勉強時間と、授業に対する評価の間にはあまり強い関係が見られないということである。しかし、昨年度と同様に設問3（予習）、4（復習）と、設問14（対試験）の間の相関が比較的大きめである。このことは、公認会計士試験の内容と関連の強い科目では、勉強時間は長めに取っている学生が多いであろうという直観と整合的である。

以上、設問間の相関からは過去と同様の結果が得られた。上記の表については過去の報告書でも報告されている。過去の報告書については、会計大学院のホームページを参照されたい (<http://www.econ.tohoku.ac.jp/~tuasad/keiji2013a.html>)。

#### 4.4. 設問ごとの集計結果と所見

以下では、それぞれの設問についての集計結果と、過去4年間の推移を示す。なお、2012年度後期のアンケート全項目の集計結果については巻末資料4を参照されたい。

##### 設問1：該当するものを選んでください（受講者属性）

選択項目	2009 前期	2009 後期	2010 前期	2010 後期	2011 前期	2011 後期	2012 前期	2012 後期
公認会計士コース（2年）	33.85%	18.53%	44.44%	39.47%	35.57%	22.69%	38.73%	24.47%
公認会計士コース（1年）	57.80%	75.88%	41.30%	47.04%	54.62%	70.45%	53.29%	61.70%
会計リサーチコース	0.44%	0.59%	0.97%	4.28%	4.20%	4.78%	3.76%	5.67%
経済経営学専攻	3.52%	2.65%	4.35%	3.62%	1.12%	1.19%	1.41%	4.61%
経済学部	4.40%	2.35%	8.70%	4.61%	2.80%	0.60%	2.58%	3.19%
その他	-	-	0.24%	0.99%	1.68%	0.30%	0.23%	0.35%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100%	100%
総数	455	340	414	304	357	335	426	282

##### 設問2：この講義にどのくらい出席しましたか。

選択項目	2009 前期	2009 後期	2010 前期	2010 後期	2011 前期	2011 後期	2012 前期	2012 後期
90%以上	79.39%	80.42%	85.92%	80.13%	85.07%	73.49%	78.17%	61.92%
89-70%	12.50%	12.17%	10.44%	13.58%	10.14%	14.76%	12.91%	23.13%
69-50%	3.95%	2.97%	1.21%	1.66%	1.41%	8.13%	4.46%	9.25%
49-20%	1.32%	2.97%	0.97%	2.98%	2.25%	2.71%	3.05%	1.78%
20%未満	2.63%	1.48%	1.46%	1.66%	1.41%	0.90%	1.41%	3.91%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100%	100%	100%
総数	456	337	412	302	355	332	426	281

##### 設問3：この講義の予習にどのくらいの時間を掛けましたか。

選択項目	2009 前期	2009 後期	2010 前期	2010 後期	2011 前期	2011 後期	2012 前期	2012 後期
5時間以上	3.30%	2.92%	6.02%	2.65%	2.51%	1.80%	4.48%	4.95%
4-5時間	1.54%	2.05%	3.86%	0.66%	2.51%	1.50%	1.42%	4.24%
3-4時間	4.40%	4.68%	5.54%	7.95%	8.66%	5.41%	5.19%	6.36%
2-3時間	12.75%	14.91%	12.53%	14.57%	9.78%	12.01%	12.03%	12.37%
1-2時間	47.91%	41.81%	41.69%	40.40%	31.84%	33.63%	36.79%	38.17%
1時間未満	30.11%	33.63%	30.36%	33.77%	44.69%	45.65%	40.09%	33.92%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100%	100%	100%
総数	455	342	415	342	358	333	424	283

##### 設問4：この講義の復習にどのくらいの時間を掛けましたか。

選択項目	2009 前期	2009 後期	2010 前期	2010 後期	2011 前期	2011 後期	2012 前期	2012 後期
5時間以上	4.16%	4.40%	7.00%	3.67%	2.53%	2.10%	3.78%	3.18%
4-5時間	1.75%	4.32%	3.38%	2.33%	4.49%	1.80%	2.84%	3.53%
3-4時間	8.97%	9.71%	6.04%	8.00%	10.96%	6.89%	7.57%	4.95%
2-3時間	22.10%	27.34%	25.85%	17.33%	14.04%	13.17%	17.26%	17.67%
1-2時間	50.98%	53.24%	41.55%	49.33%	40.45%	44.61%	40.90%	44.17%
1時間未満	12.04%	22.66%	16.18%	19.33%	27.53%	31.44%	27.66%	26.50%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100%	100%	100%
総数	457	341	414	300	356	334	423	283

##### 設問5：この講義の宿題にどのくらいの時間を掛けましたか。

選択項目	2009 前期	2009 後期	2010 前期	2010 後期	2011 前期	2011 後期	2012 前期	2012 後期
5時間以上	7.08%	19.17%	12.62%	11.41%	7.32%	10.18%	8.29%	10.36%
4-5時間	3.98%	5.60%	6.80%	3.69%	8.45%	6.29%	8.06%	5.00%
3-4時間	13.94%	9.44%	8.74%	18.79%	17.46%	10.18%	14.45%	12.50%
2-3時間	24.56%	21.24%	23.79%	18.12%	17.46%	22.75%	18.72%	22.86%
1-2時間	37.39%	26.55%	33.74%	33.22%	28.73%	28.74%	29.62%	31.79%
1時間未満	13.05%	17.99%	14.32%	14.77%	20.56%	21.56%	20.85%	17.50%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100%	100%	100%	100%
総数	452	339	412	298	355	333	422	280

設問 6：この講義の内容をどの程度理解できたと思いますか。

選択項目	2009 前期	2009 後期	2010 前期	2010 後期	2011 前期	2011 後期	2012 前期	2012 後期
理解できた	30.35%	24.12%	26.75%	26.32%	29.89%	28.14%	29.83%	29.33%
ほぼ理解できた	47.38%	50.88%	47.23%	44.41%	46.50%	46.11%	46.06%	42.05%
どちらともいえない	18.12%	21.76%	21.45%	24.67%	19.89%	21.86%	18.62%	20.85%
あまり理解できなかった	3.71%	3.24%	4.10%	3.62%	4.20%	3.29%	4.30%	5.65%
理解できなかった	0.22%	0.00%	0.48%	0.99%	1.12%	0.60%	1.19%	2.12%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100%	100%
総数	458	339	415	304	357	334	419	283

設問 7：この講義の難易度は会計大学院の講義として適切だと思いますか。

選択項目	2009 前期	2009 後期	2010 前期	2010 後期	2011 前期	2011 後期	2012 前期	2012 後期
適切	59.39%	54.25%	59.18%	58.22%	56.15%	56.42%	56.24%	49.29%
ほぼ適切	28.17%	31.38%	26.57%	28.29%	29.89%	28.66%	27.76%	32.27%
どちらともいえない	9.83%	10.85%	10.63%	11.18%	10.89%	11.94%	13.18%	15.60%
やや不適切	2.40%	2.35%	2.90%	1.64%	2.51%	2.69%	2.12%	1.06%
不適切	0.22%	1.17%	0.72%	0.66%	0.56%	0.30%	0.71%	1.77%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100%	100%	100%
総数	458	341	414	304	358	335	425	282

設問 8：教員のこの講義に対する準備は十分でしたか。

選択項目	2009 前期	2009 後期	2010 前期	2010 後期	2011 前期	2011 後期	2012 前期	2012 後期
十分	72.11%	66.47%	71.29%	69.87%	65.08%	68.17%	66.82%	67.38%
ほぼ十分	19.39%	22.06%	19.71%	21.85%	23.46%	21.02%	18.96%	22.70%
どちらともいえない	5.45%	6.18%	6.08%	6.95%	6.70%	7.21%	10.90%	8.16%
やや不十分	2.61%	2.94%	2.19%	0.99%	3.07%	1.80%	2.13%	1.06%
不十分	0.44%	2.35%	0.73%	0.33%	1.68%	1.80%	1.18%	0.71%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100%	100%
総数	459	340	411	302	358	333	422	282

設問 9：教員の説明や声量など、授業でのプレゼンテーションは良かったですか。

選択項目	2009 前期	2009 後期	2010 前期	2010 後期	2011 前期	2011 後期	2012 前期	2012 後期
良かった	66.45%	63.93%	69.34%	67.99%	62.57%	64.86%	60.90%	65.96%
まあまあ良かった	22.88%	22.87%	18.73%	21.78%	24.86%	23.72%	21.99%	20.21%
どちらともいえない	7.63%	7.92%	8.03%	8.25%	8.66%	8.41%	12.53%	7.09%
やや悪かった	1.74%	4.11%	2.68%	1.65%	3.07%	2.40%	3.07%	3.55%
悪かった	1.31%	1.17%	1.22%	0.33%	0.84%	0.60%	1.42%	3.19%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100%	100%	100%	100%
総数	459	341	411	303	358	333	423	282

設問 10：テキスト・参考書あるいはプリント等は適切でしたか。

選択項目	2009 前期	2009 後期	2010 前期	2010 後期	2011 前期	2011 後期	2012 前期	2012 後期
適切	62.14%	59.53%	63.75%	59.74%	60.06%	56.16%	53.79%	56.74%
ほぼ適切	23.41%	24.34%	22.87%	25.41%	27.09%	27.93%	25.83%	26.95%
どちらともいえない	9.63%	12.32%	9.25%	10.23%	8.38%	12.01%	15.17%	10.28%
やや不適切	3.72%	3.52%	2.43%	3.63%	3.63%	3.30%	4.03%	4.61%
不適切	1.09%	0.29%	1.70%	0.99%	0.84%	0.60%	1.18%	1.42%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100%	100%
総数	457	340	411	303	358	333	422	282

設問 11：この講義の成績評価の方法は適切だと思いますか。

選択項目	2009 前期	2009 後期	2010 前期	2010 後期	2011 前期	2011 後期	2012 前期	2012 後期
適切	60.48%	57.18%	61.31%	63.12%	59.10%	58.43%	59.72%	52.48%
ほぼ適切	23.14%	30.50%	26.52%	25.25%	25.49%	23.19%	21.33%	32.27%
どちらともいえない	13.10%	8.80%	9.00%	10.30%	11.76%	15.96%	14.45%	12.06%
やや不適切	2.84%	2.64%	1.46%	1.33%	1.96%	1.51%	3.55%	1.77%
不適切	0.44%	0.88%	1.70%	0.00%	1.68%	0.90%	0.95%	1.42%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100%	100%
総数	457	341	411	301	357	332	422	282

設問 12：この講義のシラバスは講義を理解する上で役に立ちましたか。

選択項目	2009 前期	2009 後期	2010 前期	2010 後期	2011 前期	2011 後期	2012 前期	2012 後期
役に立った	48.47%	46.63%	50.36%	43.38%	49.16%	43.54%	46.45%	44.33%
まあまあ役に立った	27.73%	26.10%	26.28%	31.46%	26.12%	25.53%	27.49%	36.17%
どちらともいえない	19.65%	21.70%	17.76%	21.85%	19.38%	22.52%	19.19%	14.18%
あまり役に立たなかった	3.28%	2.93%	3.41%	1.99%	3.65%	6.01%	5.45%	4.26%
役に立たなかった	0.87%	2.64%	2.19%	1.32%	1.69%	2.40%	1.42%	1.06%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100%	100%
総数	458	341	411	302	356	333	422	282

設問 13：総合的に見て、この講義における教員のパフォーマンスをどう評価しますか。

選択項目	2009 前期	2009 後期	2010 前期	2010 後期	2011 前期	2011 後期	2012 前期	2012 後期
評価できる	68.49%	66.57%	64.63%	66.89%	61.52%	59.46%	58.39%	56.74%
まあまあ評価できる	20.79%	22.87%	25.37%	24.50%	28.37%	27.03%	25.06%	25.18%
どちらともいえない	8.32%	6.74%	7.56%	6.62%	6.18%	8.41%	13.48%	13.12%
あまり評価できない	2.19%	1.76%	1.71%	1.66%	3.37%	2.70%	1.65%	3.90%
評価できない	0.22%	2.05%	0.73%	0.33%	0.56%	2.40%	1.42%	1.06%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100%	100%
総数	457	341	410	302	356	333	423	282

設問 14：この講義は公認会計士試験を受験する上で役立つと思いますか。

選択項目	2009 前期	2009 後期	2010 前期	2010 後期	2011 前期	2011 後期	2012 前期	2012 後期
役立つ	59.92%	33.53%	46.32%	40.00%	44.82%	44.88%	39.29%	32.98%
まあまあ役に立つ	25.38%	37.94%	28.68%	29.00%	24.93%	26.81%	22.38%	27.30%
どちらともいえない	11.60%	20.59%	17.16%	20.33%	20.73%	17.77%	27.86%	24.11%
あまり役に立たない	1.97%	6.18%	5.39%	6.67%	4.20%	5.72%	6.67%	6.03%
役に立たない	1.53%	1.76%	2.45%	4.00%	5.32%	4.82%	3.81%	9.57%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100%	100%
総数	457	340	408	300	357	332	420	282

設問 15：この講義は将来のキャリアにおいて役立つと思いますか。

選択項目	2009 前期	2009 後期	2010 前期	2010 後期	2011 前期	2011 後期	2012 前期	2012 後期
役立つ	53.95%	53.24%	50.12%	56.57%	50.00%	55.45%	53.32%	48.39%
まあまあ役に立つ	29.39%	32.06%	28.99%	25.59%	29.94%	28.48%	29.62%	30.11%
どちらともいえない	14.69%	11.47%	16.22%	14.48%	15.82%	13.33%	12.56%	15.41%
あまり役に立たない	1.54%	2.35%	3.93%	2.36%	2.54%	1.82%	3.32%	3.58%
役に立たない	0.44%	0.88%	0.74%	1.01%	1.69%	0.91%	1.18%	2.51%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100%	100%	100%
総数	456	340	407	297	354	330	422	279

注) この設問は2010年度までは「この講義は公認会計士になってからのキャリアに役立つと思いますか」であった。

ここでは、顕著な傾向の変化を取り上げ、所見を述べる。

設問 2 (出席) では、「90%以上」と回答した学生が、60%強と過去よりもはっきりと減っている。「89%-70%」との合計はこれまでと同様の水準だが、これは注意すべき点かもしれない。原則的に講義回数は15回なので、講義を2回欠席すれば90%を割る。短答式試験が年に2回実施されるようになり、後期の授業で欠席が増えたことは想像できるが、2011年度にも短答式は2度行われており、2011年度後期からの大幅な低下は説明しきれない。他の原因として、学生の進路が多様化し、就職活動や内定先の研修等で後期の授業を欠席することが増えているのかもしれない。この点はさらに原因を探る必要があると思われる。

設問 14 (対試験) も過去と比べて全体的に評価が低いように見える。これには大きく分けてふたつの原因が疑われる。ひとつは、公認会計士受験に役立つ科目が減った可能性である。もうひとつは、公認会計士試験と関係のない科目を受講する学生が増えた可能性である。もちろん、公認会計士試験に役立つかどうかは、会計大学院の講義の価値のすべてではないし、そのために会計大学院はあるのではない。前述したように、会計大学院学生の多様化が背景にあるのかもしれない。社会の要請と学生のニーズに応えられるよう、カリキュラムの編成をしていきたい。

#### 4.5. 自己評価と今後の課題

ここでは、本節で扱っている「授業アンケート」の結果について評価を行い、今後の課題を検討する。

##### ・学生の学習（設問2から5）について

まず、設問3についてだが、予習にかける時間は2時間以内と答えた学生が70%を越えている。また、設問4でも、復習に2時間以上かけない学生が70%を越えている。これまでより若干ばらつきが見えるものの、これらの傾向はこれまでのアンケートと似たようなものである。2時間以内で予習・復習をそれぞれ済ませている学生の割合は、この数年増えていない。基本的に毎年同じ教員が同じ授業を担当するため、各教員及び授業についてある程度の情報の蓄積が学生間でなされているのであろうと予測されるが、情報が行き渡り、飽和したのかもしれない。設問2と設問5に関しては、注目すべき変化は見あたらない。これまでと同様、宿題にかける時間には大きなばらつきが見られる。

##### ・教員への評価（設問6から13）について

これらの設問に関しては、過去のアンケート結果とほぼ同じ結果が得られた。しかし、全体的に緩やかに悪化し続けているようにも見える。今後も講義の充実に励んでいきたい。

##### ・講義の内容（設問14, 15）について

設問14（対試験）については、前述したとおり顕著な悪化が見られた。設問15（キャリア）の結果は若干悪化しているようにも見えるが、「役立つ」と「まあまあ役立つ」の合計は約80%であり、過去のアンケートと同様の水準を保っていると考えて良いだろう。前節で学生の多様化について言及した。そこでは、公認会計士受験に役立つ科目が減った可能性と、公認会計士試験と関係のない科目を受講する学生が増えた可能性について指摘した。設問14の結果は、学生たちが受講した科目は試験に対しては役に立たない方にシフトしていることを示している。他方、設問15の結果は、将来のキャリアに対してはこれまでとあまり評価が変わっていないことを示している。授業・カリキュラムの質が低下しているのであれば、設問15の結果は設問14の結果と同じように大きく悪化するはずである。したがって、公認会計士試験対策に役立つ科目の受講が減少している傾向があるかもしれない。会計士試験に関係の強い科目とそうでない科目の受講者数の推移について確認し、この点について検討すべきであろう。本報告書では学生の多様化に繰り返し言及しているが、公認会計士志望者のニーズの多様化についても注目すべきかもしれない。様々なニーズを持つ学生たちが、それぞれどういった要望を本会計大学院の授業に対して持っているかは、個人面談等の機会を通して情報収集していきたい。今後とも授業内容の充実に努めていきたい。

## 5. 自由記入欄の意見について

「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」と「会計大学院の授業に関するアンケート」に設けられた自由記入欄について、授業に関するものは科目担当教員による対応が必要であるので、寄せられた意見はこれまで通り担当教員へ報告し、改善すべき点は改善を行うよう依頼している。

授業については、おおむね大きな問題はなかったようである。まず、「授業に関するアンケート」で全体的に見られた意見をいくつか挙げておく。

- i) プレゼンテーションやコンテストを学生が行った講義がいくつかあるが、学ぶことが多いようである。
- ii) 将来のキャリアに役立ちそうな内容の授業は評価が高い。
- iii) 実務家による講義であっても、求められているのは体系化された知識であり、実体験そのものではない。

各教員には、こうした意見を講義の改善に役立ててもらえればと思う。

次に、「カリキュラム等に関するアンケート」について記述する。まず開講してほしい科目についてだが、経営学が多く見られた。現状でも経営学分野の科目はあるが、よりベーシックな経営学の科目に対する要望があるように思われる。今回は自由記入欄への記入が少なかつたため、相違を反映しているとは言えないが、他には統計学のより基本的な内容の科目や、ITと会計についての科目を増やしてほしいといった要望があった。隔年開講している一部の科目についても毎年開講してほしいという要望があった。これは至って自然な要望であり、本会計大学院としても対応していきたいと考えている。

2011年5月に、本会計大学院はもとあった川内キャンパスから現在の片平キャンパスへ移転した。川内キャンパスには経済学研究科・経済学部および経済図書室があり、図書室へのアクセスは悪くなったと言っている。2012年度の2年生は、入学当初から片平キャンパスに通学していたため、昨年度のカリキュラム等に関するアンケートとは違い、川内キャンパスにあった時よりも便利になったのか不便になったのかについて、比較することはできない。一部の学生は本学経済学部からの進学者なので、キャンパスの比較はできるかもしれないが、会計大学院学生としては川内キャンパスにいたことはない。会計リサーチコースの学生等がリサーチペーパーを執筆する際に、川内キャンパスにある経済図書室の存在は大きい。英語で書かれた論文については、電子ジャーナルで関係するほぼすべての文献にアクセス可能であるが、日本語の文献については経済図書室に行く機会が多い。片平キャンパスにも資料室はあるが、蔵書を充実させる必要はまだ大きい。ここでは日本語文献へのアクセスについて記述するにとどめるが、会計大学院のカリキュラム・環境は蔵書だけではない。個人面談や普段の講義等の機会を活用し、今後も会計大学院のカリキュラム及び環境の整備に努めていきたい。

資料1：2012年度後期「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」設問用紙

会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート（2012年度後期）

このアンケートは、学生諸君の意見を会計大学院のカリキュラム改善に役立てることを目的として行うものであり、集計結果等は報告書として公表致します。

回答者属性

番号	質問	回答
1	あなたの専攻・コース（学年）について、該当するものを選んで下さい。	(5) 公認会計士コース（2年） (2) 経済経営学専攻 (4) 公認会計士コース（1年） (1) 経済学部 (3) 会計リサーチコース (0) その他

カリキュラムについて

番号	質問	回答
2	基礎、展開、実践・応用科目（注）の配置は適切だと思いますか？	(5) 適切である (2) やや不適切である (4) ほぼ適切である (1) 不適切である (3) どちらともいえない
3	セメスター間の開設授業科目のバランスは適切だと思いますか？	(5) 適切である (2) やや不適切である (4) ほぼ適切である (1) 不適切である (3) どちらともいえない
4	オフィスマナーを利用して教員に履修相談・質問等を行った回数についてお答えください。	(5) 5回以上 (2) 1回 (4) 4回または3回 (1) 利用しなかった (3) 2回
5	セメスター開始時に行われる個人面談は、学習計画を立てる上で役に立ちましたか？	(5) 役に立った (2) あまり役に立たなかった (4) まあまあ役に立った (1) 役に立たなかった (3) どちらともいえない
6	成績評価に用いているGPAは、学生個々の能力を適切に評価できると思いますか？	(5) 適切である (2) やや不適切である (4) ほぼ適切である (1) 不適切である (3) どちらともいえない
7	講義の予習・復習・宿題以外に、公認会計士試験のための自主学習には1日平均何時間くらい時間を掛けていますか？	(5) 5時間以上 (2) 1-3時間 (4) 4-5時間 (1) 1時間未満 (3) 3-4時間
8	本大学院では、学生への連絡・掲示媒体としてe-mail、HPを用いていますが、このシステムは役に立ちましたか？	(5) 役に立った (2) あまり役に立たなかった (4) まあまあ役に立った (1) 役に立たなかった (3) どちらともいえない
9	在学中に公認会計士試験を受験しようと考えていますか？	(5) 考えている (4) まだ決めていない (3) 考えていない
10	会計大学院OB会を組織したいと考えています。OB会創設に関してご意見をお聞かせ下さい。	(5) 賛成 (4) 反対 (3) 分からない 《特にご意見のある方は、自由記入欄へご記入下さい。》
11	今後、新たに開設すべき科目がありますか？	自由記入欄に3つ以内で回答して下さい。

(注) 科目分類については裏面を参照して下さい。

基礎科目：各科目領域（会計・経済と経営・ITと統計・法と倫理）を学ぶ上で基礎となる内容を学習する。

展開科目：基礎科目の理解を前提とし、より高度な内容を学習する。

実践・応用科目：基礎、展開科目で学んだ内容が、実際にどのように応用されていくのかを学習する。

アンケートは以上です。御協力感謝致します。

資料 2：2012 年度後期「会計大学院の授業に関するアンケート」設問用紙

会計大学院の授業に関するアンケート（2012 年度後期）

このアンケートは会計大学院の授業改善に学生諸君の意見を反映するためのものであり、集計結果等は報告書として公表致します。

授業科目名はマークシート用紙に記入されていますので御確認下さい。

回答者属性

番号	質問	回答
1	あなたの専攻・コース（学年）について、該当するものを選んで下さい。	(5) 公認会計士コース（2 年） (4) 公認会計士コース（1 年） (3) 会計リサーチコース (2) 経済経営学専攻 (1) 経済学部 (0) その他

科目内容について

番号	質問	回答	備考
2	この講義にどのくらい出席しましたか？	(5) 90% 以上 (4) 89-70% (3) 69-50% (2) 49-20% (1) 20% 未満	おおよその出席率で回答して下さい。
3	この講義の予習にどのくらいの時間を掛けましたか？	(5) 5 時間以上 (4) 4-5 時間 (3) 3-4 時間 (2) 2-3 時間 (1) 1-2 時間 (0) 1 時間未満	セメスターを通じた平均時間を回答して下さい。
4	この講義の復習にどのくらいの時間を掛けましたか？	(5) 5 時間以上 (4) 4-5 時間 (3) 3-4 時間 (2) 2-3 時間 (1) 1-2 時間 (0) 1 時間未満	宿題に掛けた時間を含めずに回答して下さい。
5	この講義の宿題にどのくらいの時間を掛けましたか？	(5) 5 時間以上 (4) 4-5 時間 (3) 3-4 時間 (2) 2-3 時間 (1) 1-2 時間 (0) 1 時間未満	セメスターを通じた平均時間を回答して下さい。
6	この講義の内容をどの程度理解できたと思いますか？	(5) 理解できた (4) ほぼ理解できた (3) どちらともいえない (2) あまり理解できなかった (1) 理解できなかった	
7	この講義の難易度は会計大学院の講義として適切だと思いますか？	(5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない (2) やや不適切である (1) 不適切である	この講義が基礎、展開、実践・応用科目（注）の何れに属しているか（マークシートに記載）を考慮して回答して下さい。

（注）実践・応用科目は基礎、展開科目で学んだ内容が、実際にどのように応用されていくのかを学習する。

番号	質問	回答	備考
8	教員のこの講義に対する準備は十分でしたか？	(5) 十分だった (4) ほぼ十分だった (3) どちらともいえない (2) やや不十分だった (1) 不十分だった	
9	教員の説明や声量など、授業でのプレゼンテーションは良好でしたか？	(5) 十分だった (4) ほぼ十分だった (3) どちらともいえない (2) やや不十分だった (1) 不十分だった	板書・プロジェクター等の利用も考慮して回答して下さい。
10	テキスト・参考書あるいはプリント等は適切でしたか？	(5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない (2) やや不適切である (1) 不適切である	
11	この講義の成績評価の方法は適切であると思いますか？	(5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない (2) やや不適切である (1) 不適切である	シラバスに記載されている成績評価を考慮して回答して下さい。
12	この講義のシラバスは講義を理解する上で役に立ちましたか？	(5) 役に立った (4) まあまあ役に立った (3) どちらともいえない (2) あまり役に立たなかった (1) 役に立たなかった	講義を選択する際に役立ったかという点も考慮して回答して下さい。
13	総合的に見て、この講義における教員のパフォーマンスをどう評価しますか？	(5) 評価できる (4) まあまあ評価できる (3) どちらともいえない (2) あまり評価できない (1) 評価できない	
14	この講義は、公認会計士試験を受験する上で役立つと思いますか？	(5) 役立つ (4) まあまあ役に立つ (3) どちらともいえない (2) あまり役に立たない (1) 役に立たない	
15	この講義は、将来のキャリアにおいて役立つと思いますか？	(5) 役立つ (4) まあまあ役に立つ (3) どちらともいえない (2) あまり役に立たない (1) 役に立たない	
16	あなたが既に合格している資格試験等について、該当するものを選んで下さい。	(5) 税理士会計科目 (4) 公認会計士短答式 (3) 日商簿記1級 (2) 日商簿記2級 (1) その他 (0) 何も無い	複数回答可能です。複数回答をするときはマークシートの16～20の欄に1つずつマークして下さい。(1)については自由記入欄に具体的に記入して下さい。
21	《講義担当教員による質問》	(5), (4), (3), (2), (1)	担当教員による質問があれば回答して下さい。
22	《自由記入欄》	授業の感想、担当教員への要望、また本アンケートの各質問に関連した更なる意見等を、マークシート添付の用紙に自由に記入して下さい。	

アンケートは以上です。御協力感謝致します。

資料3：2012年度後期「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」集計結果

	選択項目	人数	割合
設問1 回答者属性	公認会計士コース(2年)	4	13.79%
	公認会計士コース(1年)	24	82.76%
	会計リサーチコース	1	3.45%
	経済経営学専攻	0	0.00%
	経済学部	0	0.00%
	その他	0	0.00%
	合計	29	100%
設問2 基礎, 展開, 実践・応用科目の配置は適切だと思いますか.	適切である	10	35.71%
	ほぼ適切である	10	35.71%
	どちらともいえない	5	17.86%
	やや不適切である	3	10.71%
	不適切である	0	0.00%
	合計	28	100%
設問3 Semester間の開設授業科目のバランスは適切だと思いますか.	適切である	9	31.03%
	ほぼ適切である	9	31.03%
	どちらともいえない	6	20.69%
	やや不適切である	4	13.79%
	不適切である	1	3.45%
	合計	29	100%
設問4 オフィスアワーを利用して教員に履修相談・質問等を行った回数.	5回以上	2	6.90%
	4回または3回	5	17.24%
	2回	1	3.45%
	1回	8	27.59%
	利用しなかった	13	44.83%
	合計	29	100%
設問5 Semester開始時の個人面談は, 学習計画を立てる上で役に立ちましたか.	役に立った	4	13.79%
	まあまあ役に立った	11	37.93%
	どちらともいえない	7	24.14%
	あまり役に立たなかった	5	17.24%
	役に立たなかった	2	6.90%
	合計	29	100%
設問6 GPAによって学生の能力を適切に評価できると思えますか.	適切である	7	24.14%
	ほぼ適切である	5	17.24%
	どちらともいえない	12	41.38%
	やや不適切である	3	10.34%
	不適切である	2	6.90%
	合計	29	100%
設問7 受験のための自主学習には1日平均何時間くらいかけていますか.	5時間以上	10	35.71%
	4-5時間	5	17.86%
	3-4時間	3	10.71%
	1-3時間	5	17.86%
	1時間未満	5	17.86%
	合計	28	100%
設問8 e-mail, HPを用いた連絡システムは役に立ちましたか.	役に立った	16	55.17%
	まあまあ役に立った	9	31.03%
	どちらともいえない	4	13.79%
	あまり役に立たなかった	0	0.00%
	役に立たなかった	0	0.00%
	合計	29	100%
設問9 在学中の受験を考えていますか.	考えている	14	48.28%
	まだ決めていない	4	13.79%
	考えていない	11	37.93%
	合計	29	100%
設問10 OB会について	賛成	19	67.86%
	反対	3	10.71%
	分からない	6	21.43%
	合計	28	100%

注) 設問の文言は本来のものと若干異なります.

資料4：2012年度後期「会計大学院の授業に関するアンケート」集計結果

	選択項目	人数	割合
設問1 あなたの専攻・コース(学年)について、該当するものを選んで下さい。	公認会計士コース(2年)	69	24.47%
	公認会計士コース(1年)	174	61.70%
	会計リサーチコース	16	5.67%
	経済経営学専攻	13	4.61%
	経済学部	9	3.19%
	その他	1	0.35%
	合計	282	100.00%
設問2 この講義にどのくらい出席しましたか。	90%以上	174	61.92%
	89-70%	65	23.13%
	69-50%	26	9.25%
	49-20%	5	1.78%
	20%未満	11	3.91%
	合計	281	100.00%
設問3 この講義の予習にどのくらいの時間を掛けましたか。	5時間以上	14	4.95%
	4-5時間	12	4.24%
	3-4時間	18	6.36%
	2-3時間	35	12.37%
	1-2時間	108	38.16%
	1時間未満	96	33.92%
	合計	283	100.00%
設問4 この講義の復習にどのくらいの時間を掛けましたか。	5時間以上	9	3.18%
	4-5時間	10	3.53%
	3-4時間	14	4.95%
	2-3時間	50	17.67%
	1-2時間	125	44.17%
	1時間未満	75	26.50%
	合計	283	100.00%
設問5 この講義の宿題にどのくらいの時間を掛けましたか。	5時間以上	29	10.36%
	4-5時間	14	5.00%
	3-4時間	35	12.50%
	2-3時間	64	22.86%
	1-2時間	89	31.79%
	1時間未満	49	17.50%
	合計	280	100.00%
設問6 この講義の内容をどの程度理解できたと思いますか。	理解できた	83	29.33%
	ほぼ理解できた	119	42.05%
	どちらともいえない	59	20.85%
	あまり理解できなかった	16	5.65%
	理解できなかった	6	2.12%
	合計	283	100.00%
設問7 この講義の難易度は会計大学院の講義として適切だと思いますか。	適切	139	49.29%
	ほぼ適切	91	32.27%
	どちらともいえない	44	15.60%
	やや不適切	3	1.06%
	不適切	5	1.77%
	合計	282	100.00%
設問8 教員のこの講義に対する準備は十分でしたか。	十分	190	67.38%
	ほぼ十分	64	22.70%
	どちらともいえない	23	8.16%
	やや不十分	3	1.06%
	不十分	2	0.71%
	合計	282	100.00%

	選択項目	人数	割合
設問9 教員の説明や声量など、授業でのプレゼンテーションは良好でしたか。	十分	186	65.96%
	ほぼ十分	57	20.21%
	どちらともいえない	20	7.09%
	やや不十分	10	3.55%
	不十分	9	3.19%
	合計	282	100.00%
設問10 テキスト・参考書あるいはプリント等は適切でしたか。	適切	160	56.74%
	ほぼ適切	76	26.95%
	どちらともいえない	29	10.28%
	やや不適切	13	4.61%
	不適切	4	1.42%
	合計	282	100.00%
設問11 この講義の成績評価の方法は適切であると思いますか。	適切	148	52.48%
	ほぼ適切	91	32.27%
	どちらともいえない	34	12.06%
	やや不適切	5	1.77%
	不適切	4	1.42%
	合計	282	100.00%
設問12 この講義のシラバスは講義を理解する上で役に立ちましたか。	役に立った	125	44.33%
	まあまあ役に立った	102	36.17%
	どちらともいえない	40	14.18%
	あまり役に立たなかった	12	4.26%
	役に立たなかった	3	1.06%
	合計	282	100.00%
設問13 総合的に見て、この講義における教員のパフォーマンスをどう評価しますか。	評価できる	160	56.74%
	まあまあ評価できる	71	25.18%
	どちらともいえない	37	13.12%
	あまり評価できない	11	3.90%
	評価できない	3	1.06%
	合計	282	100.00%
設問14 この講義は公認会計士試験を受験する上で役に立つと思いますか。	役立つ	93	32.98%
	まあまあ役に立つ	77	27.30%
	どちらともいえない	68	24.11%
	あまり役に立たない	17	6.03%
	役に立たない	27	9.57%
	合計	282	100.00%
設問15 この講義は、将来のキャリアにおいて役立つと思いますか。	役立つ	135	48.39%
	まあまあ役に立つ	84	30.11%
	どちらともいえない	43	15.41%
	あまり役に立たない	10	3.58%
	役に立たない	7	2.51%
	合計	279	100.00%
設問16 あなたが既に合格している資格試験等について、該当するものを選んで下さい。	税理士会計科目	11	4.18%
	公認会計士短答式	20	7.60%
	日商簿記1級	53	20.15%
	日商簿記2級	142	53.99%
	その他	6	2.28%
	何も無い	31	11.79%
	合計	263	100.00%

注) 設問の文言は本来のものと若干異なります。

2012 年度 東北大学会計大学院ワークショップ委員会

委員長	松田 康弘
委員	青木 雅明
委員	木村 史彦
委員	米谷 健司
委員	千木良弘朗

会計大学院アンケート実施報告書 2012 年度後期

2013 年 7 月 1 日発行

編集・発行：東北大学会計大学院ワークショップ委員会